

1992年 大会記録

国際

ヤリギン国際大会 = 男子フリースタイル (1月 11~12 日、ロシア・クラスノヤルスク)

ク)

48kg 級 田村茂一 (青森・青森商高) = 三失、 68kg 級 赤石光生 (ユニマツト) = 4 位

ヤクーツ国際大会 = 男子フリースタイル (1月 16 日、ロシア・ヤクーツ)

48kg 級 田村茂一 (青森・青森商高) = 3 位

ミシガン・オープン・トーナメント = 男子フリースタイル (2月 2 日、米国・カラマズー)

ズー)

48kg 級 平野孝喜 (京樽) = 優勝、工藤博 (山梨学院大) = 2 位、 57kg 級 奥山恵二 (山形・山形南高教) = 2 位、石嶋勇次 (山梨学院大) = 四失、阿部三子郎 (ペンシルベニア州立大) = 6 位、 62kg 級 安達巧 (日体大助) = 優勝、 74kg 級 角崎朋博 (山形・東根工高教) = 優勝、原喜彦 (新潟・新潟北高教) = 3 位、小野瀬哲也 (山梨学院大) = 三失

マラル・カップ = 男子グレコローマン (2月 9~10 日、スウェーデン・)

48kg 級 大橋正教 (ユニマツト) = 5 位、浅川享助 (山梨学院大) = 一失、 57kg 級 藤岡道三 (奈良県体協) = 6 位、 62kg 級 西口茂樹 (日体大大学院) = 二失、栗本秀樹 (日体大) = 一失

アジア選手権 (4月 7~10 日、イラン・テヘラン)

《男子フリースタイル》 48kg 級 入江隆 (自衛隊) = 6 位、 52kg 級 清水一成 (山形・上山農高教) = 4 位、 57kg 級 奥山恵二 (山形・山形南高教) = 5 位、 62kg 級 安達巧 (日体大助) = 二失、 68kg 級 赤石光生 (ユニマツト) = 4 位、 74kg 級 原喜彦 (新潟・新潟北高教) = 2 位、 82kg 級 伊藤敦 (京都府体協) = 3 位、 90kg 級 太田章 (早大教) = 3 位、 100kg 級 中西学 (新日本プロレス職) = 3 位、 130kg 級 本田多聞 (自衛隊) = 3 位

《男子グレコローマン》 48kg 級 大橋正教 (ユニマツト) = 優勝、 52kg 級 中森昭平 (警視庁) = 7 位、 57kg 級 = 出場なし、 62kg 級 = 出場なし、 68kg 級 森巧 (自衛

隊) = 2位、 74kg級 湯浅邦茂(甲府養護学教) = 6位、 82kg級 永田裕志(日体大助手) = 4位、 90kg級 森山泰年(自衛隊) = 3位、 100kg級 野々村孝(香川県スポーツ振興財団) = 2位、 130kg級 鈴木賢一(読売千葉広告社) = 2位

モスクワ女子国際大会(5月15~16日、ロシア・モスクワ)

44kg級 吉村祥子(スポーツ東急) = 優勝、 53kg級 福原邦子(京樽) = 3位、 57kg級 飯島晶子(京樽) = 優勝、 61kg級 星川君枝(ユニマット) = 2位、 65kg級 清水真理子(群馬・富岡東高) = 5位、 70kg級 浦野弥生(京樽) = 優勝

コンコード国際大会=男子グレコローマン(5月23~24日、米国・コンコード)

57kg級 花原大介(警視庁) = 一失、 68kg級 森巧(自衛隊) = 4位、 100kg級 野々村孝(香川県スポーツ振興財団) = 4位

カナダ・カップ=男子フリースタイル(6月30日、カナダ・ハミルトン)

48kg級 佐伯豊(日大) = 4位、 山口譲司(国士舘大) = 5位、 52kg級 小山田秀晴(山梨学院大) = 5位、 窪木浩(明大) = 二失、 57kg級 入江格(国士舘大) = 二失、 小倉偉延(専大) = 二失、 62kg級 中石義洋(日体大) = 二失、 毎熊潤一郎(中大) = 二失、 68kg級 小柴健二(日体大) = 4位、 赤石光輝(日大) = 9位、 74kg級 荻田剛志(早大) = 2位、 82kg級 小野瀬哲也(山梨学院大) = 8位、 90kg級 藤田和之(日大) = 3位、 100kg級 梅田誠幸(東海大) = 6位、 130kg級 浜上稔(日体大) = 4位

世界女子選手権(9月4~5日、フランス・ピエルバンヌ)

44kg級 吉村祥子(スポーツ東急) = 2位、 47kg級 上林美穂(羽島市連盟) = 3位、 50kg級 遠藤美子(東洋大職) = 2位、 53kg級 川崎明美(自衛隊) = 2位、 57kg級 坂本涼子(リプレ中京女大) = 優勝、 61kg級 星川君枝(ユニマット) = 2位、 65kg級 清水真理子(群馬・富岡東高) = 5位、 70kg級 浦野弥生(京樽) = 2位、 75kg級 船越光子(栃木・壬生高) = 2位

世界ジュニア選手権(6月27~7月2日、コロンビア・カリ)

《男子フリースタイル》 46kg級 長尾勇氣(宮崎・宮崎工) = 二失、 50kg級 三榊邦明(茨城・霞ヶ浦高) = 三失、 54kg級 寺尾将幸(京北高) = 三失、 58kg級 仲上貴光(滋賀・甲西高) = 二失、 63kg級 天谷満博(早大) = 2位、 68kg級 北島一樹(茨城・霞ヶ浦高) = 9位、 74kg級 山口幸信(茨城・霞ヶ浦) = 三失、 81kg級 小室誠一(茨城・霞ヶ浦高) = 9位、 88kg級 草間正人(茨城・霞ヶ浦) = 二失、 115kg級 岡部孝士(東京・東京工高) = 9位

《男子グレコローマン》 46kg 級 = 出場なし、 50kg 級 工藤慎也 (山梨・葦崎工高) = 四失、 54kg 級 日浦博幸 (徳島・穴吹高) = 二失、 58kg 級 渡部博文 (大阪・泉尾工高) = 二失、 63kg 級 大西一也 (徳島・穴吹高) = 9 位、 68kg 級 高橋謙治 (群馬・関東学園高) = 6 位、 74kg 級 堀越秀人 (東海大) = 二失、 81kg 級 小浦宏之 (専大) = 二失、 88kg 級 大園悟志 (愛知・星城) = 二失、 115kg 級 坂下昇 (福井・高浜高) = 二失

バルセロナ五輪 (7月25日～8月7日、スペイン・バルセロナ)

《男子フリースタイル》 52kg 級 佐藤満 (日本体育会) = 6 位、 57kg 級 奥山恵二 (山形・山形南高教) = 三失、 62kg 級 安達巧 (日体大助) = 二失、 68kg 級 赤石光生 (ユニマツト) = 3 位、 74kg 級 原喜彦 (新潟・新潟北高教) = 四失、 82kg 級 伊藤敦 (京都府体協) = 二失、 90kg 級 太田章 (早大教) = 三失、 100kg 級 中西学 (新日本プロレス職) = 二失、 130kg 級 本田多聞 (自衛隊) = 二失

《男子グレコローマン》 48kg 級 大橋正教 (ユニマツト) = 9 位、 57kg 級 花原大介 (警視庁) = 二失、 62kg 級 西口茂樹 (日体大大学院) = 三失、 68kg 級 森巧 (自衛隊) = 二失、 90kg 級 森山泰年 (自衛隊) = 二失、 100kg 級 野々村孝 (香川県スポーツ振興財団) = 二失、 130kg 級 鈴木賢一 (読売千葉広告社) = 二失

世界カデット選手権 (8月13～16日、トルコ・イスタンブール)

《男子フリースタイル》 43kg 級 上林浩二 (愛知・西尾中) = 三失、 47kg 級 太田亮介 (静岡・焼津港中) = 9 位、 51kg 級 吉田征樹 (茨城・愛宕中) = 二失、 55kg 級 野入明 (千葉・野田一中) = 二失、 60kg 級 大橋理秀 (大阪・吹田一中) = 四失、 65kg 級 美山哲成 (茨城・内原中) = 二失、 70kg 級 浜崎哲治 (島根・松江二中) = 10 位、 76kg 級 山川浩一 (群馬・館林三中) = 二失、 83kg 級 伊調寿行 (青森・八戸長者中) = 二失、 95kg 級 高倉洋一郎 (群馬・尾島) = 二失

《男子グレコローマン》 43kg 級 奥田昌規 (千葉・野田一中) = 二失、 47kg 級 = 出場なし、 51kg 級 中川洋 (岡山・倉敷玉島東中) = 二失、 55kg 級 石嶋健太郎 (茨城・愛宕中) = 二失、 60kg 級 兵藤健司 (群馬・館林二中) = 二失、 65kg 級 = 出場なし、 70kg 級級 = 出場なし、 76kg 級 = 出場なし、 83kg 級 高田浩也 (茨城・鉾田南中) = 二失、 95kg 級級 = 出場なし

ベルギー国際大会 (8月21～22日、ベルギー・パアーゼルクルーバック)

《男子フリースタイル》 57kg 級 角地山豊 (警視庁) = 優勝、 62kg 級 藤田隆和 (徳

島県教委) = 優勝、 68kg 級 勝龍三郎(香川県スポーツ振興財団) = 優勝、吉本収(ヤマサン) = 2位、 74kg 級 太田拓弥(日体大助) = 2位、 90kg 級 大村達哉(長崎・島原高教) = 4位

《男子グレコローマン》 52kg 級 清水光二(山形県競技力向上対策本部) = 優勝、 62kg 級 古屋博也(内藤ハウス) = 4位、 68kg 級 今村浩之(山形中央農協会) = 2位、 74kg 級 植村久弥(三重・鳥羽高教) = 2位、 82kg 級 向井孝博(ヤマサン) = 優勝、 130kg 級 奈良英則(警視庁) = 6位

国内

全日本選手権(3月10~12日、東京・純心女高)

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 入江隆(自衛隊)、 52kg 級 佐藤満(日本体育会)、 57kg 級 奥山恵二(山形・山形南高教)、 62kg 級 安達巧(日体大助)、 68kg 級 赤石光生(ユニマツト)、 74kg 級 原喜彦(新潟・新潟北高教)、 82kg 級 伊藤敦(京都府体協)、 90kg 級 太田章(早大教)、 100kg 級 中西学(新日本プロレス職)、 130kg 級 本田多聞(自衛隊)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 大橋正教(ユニマツト)、 52kg 級 中森昭平(警視庁)、 57kg 級 花原大介(警視庁)、 62kg 級 西口茂樹(日体大大学院)、 68kg 級 森巧(自衛隊)、 74kg 級 湯浅邦茂(山梨・甲府養護学教)、 82kg 級 永田裕志(日体大助手)、 90kg 級 森山泰年(自衛隊)、 100kg 級 野々村孝(香川県スポーツ振興財団)、 130kg 級 鈴木賢一(読売千葉広告社)

全国高校選抜大会(3月29~30日、新潟・新潟市体育館)

《学校対抗戦》[1] 茨城・霞ヶ浦(5年連続5度目)、[2] 秋田・秋田商、[3] 岐阜・岐阜工、鹿児島・鹿児島商工

《個人優勝》 46kg 級 本間洋志(茨城・土浦日大)、 50kg 級 南大士郎(茨城・霞ヶ浦)、 54kg 級 栗田弘明(栃木・足利工大付)、 58kg 級 杉田健吾(秋田・秋田商)、 63kg 級 谷山祐治(鹿児島・鹿児島商工)、 68kg 級 織山昭仁(秋田・秋田商)、 74kg 級 高橋善孝(青森・八戸工大一)、 115kg 級 篠崎正二(茨城・霞ヶ浦)

全日本ジュニア選手権(4月2~4日、栃木・足利市総合体育館)

《男子フリースタイル優勝者》 46kg 級 長尾勇氣(宮崎・宮崎工)、 50kg 級 三榊邦明(茨城・霞ヶ浦高)、 54kg 級 寺尾将幸(京北高)、 58kg 級 仲上貴光(滋賀・

甲西高)、 63kg 級 天谷満博(早大)、 68kg 級 北島一樹(茨城・霞ヶ浦高)、 74kg 級 山口幸信(茨城・霞ヶ浦)、 81kg 級 小室誠一(茨城・霞ヶ浦高)、 88kg 級 草間正人(茨城・霞ヶ浦)、 115kg 級 岡部孝士(東京・東京工高)

《男子グレコローマン優勝者》 46kg 級 中村吉元(日体大)、 50kg 級 工藤慎也(山梨・韮崎工高)、 54kg 級 日浦博幸(徳島・穴吹高)、 58kg 級 渡部博文(大阪・泉尾工高)、 63kg 級 大西一也(徳島・穴吹高)、 68kg 級 高橋謙治(群馬・関東学園高)、 74kg 級 堀越秀人(東海大)、 81kg 級 小浦宏之(専大)、 88kg 級 大園悟志(愛知・星城)、 115kg 級 室谷正憲(和歌山・和歌山東)

全日本エスポアール選手権(4月18~19日、日体大)

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 佐伯豊(日大)、 52kg 級 田村茂一(日大)、 57kg 級 木沢美幸(東洋大)、 62kg 級 黒田安秀(日体大)、 68kg 級 小柴健二(日体大)、 74kg 級 木村洋介(専大)、 82kg 級 福田雅一(日大)、 90kg 級 ルイス・バレラ(日大)、 100kg 級 権瓶広光(専大)、 130kg 級 滝口徹(国士館大)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 中村吉元(日体大)、 52kg 級 狩野達治(東洋大)、 57kg 級 西島隆(日体大)、 62kg 級 坂上桂一(日体大)、 68kg 級 長和徹(日体大)、 74kg 級 有賀浩樹(日体大)、 82kg 級 高木章夫(日体大)、 90kg 級 吉田幸司(日体大)、 100kg 級 権瓶広光(専大)、 130kg 級 高柳雄志(中大)

東日本学生リーグ戦(5月14・15・20~22日、東京・駒沢体育館)

《順位》[1]日体大(14年連続16度目)、[2]国士大、[3]日大、[4]山梨学院大、[5]中大、[6]専大、[7]大東大、[8]東洋大

西日本学生春季リーグ戦(5月30~31日、大阪・大阪府立体育会館第2体育館)

《順位》[1]近大(18季ぶり8度目)、[2]福岡大、[3]徳山大、[4]桃山学院大、[5]南九州大、[6]同志社大

東日本学生春季新人戦(6月5~7日、東京・青少年総合センター)

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 佐伯豊(日大)、 52kg 級 石田隆(日体大)、 57kg 級 佐藤公一(日体大)、 62kg 級 高橋淳(日大)、 68kg 級 勝田雅喜(日体大)、 74kg 級 木村洋介(専大)、 82kg 級 ルイス・バレラ(日大)、 90kg 級 吉田幸司(日体大)、 100kg 級 小野瀬哲也(山梨学院大)、 130kg 級 滝口徹(国士館大)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 中村吉元(日体大)、 52kg 級 勝目力也(山梨学院大)、 57kg 級 後藤誠一(日体大)、 62kg 級 高橋明善(日体大)、 68kg 級 原敬(日体大)、 74kg 級 有賀浩樹(日体大)、 82kg 級 菅原文太(大東大)、 90kg 級 権瓶広光(専大)、 100kg 級 水倉元(専大)、 130kg 級 大川祐一(拓大)

西日本学生新人戦(6月27~28日、大阪・堺市初芝体育館)

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 福田正樹(福岡大)、 52kg 級 酒井徹治(福岡大)、 57kg 級 山中紅斗(福岡大)、 62kg 級 中村富彦(近大)、 68kg 級 中野英樹(福岡大)、 74kg 級 上田智路(福岡大)、 82kg 級 馬場博隆(福岡大)、 90kg 級 楠健二(徳山大)、 130kg 級 佐藤京夏(桃山学院大)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 平野健司(近大)、 52kg 級 原田圭一(近大)、 57kg 級 山中紅斗(福岡大)、 62kg 級 中村富彦(近大)、 68kg 級 永井良宣(桃山学院大)、 74kg 級 上田智路(福岡大)、 82kg 級 竹内一政(南九州大)、 90kg 級 桜井竹秀(近大)、 130kg 級 元平順也(近大)

全日本女子選手権(5月31日、東京・青少年総合センター)

《優勝者》 44kg 級 吉村祥子(スポーツ東急)、 47kg 級 上林美穂(羽島市連盟)、 50kg 級 パトリシア・サンダース(米国)、 53kg 級 川崎明美(自衛隊)、 57kg 級 坂本涼子(リプレ中京女大)、 61kg 級 星川君枝(ユニマット)、 65kg 級 清水真理子(群馬・富岡東高)、 70kg 級 浦野弥生(京樽)、 75kg 級 船越光子(栃木・壬生高)、 75kg 以上級 三宅由美(リプレ中京女大)

全国中学生選手権(6月13~14日、茨城・茨城県立スポーツセンター)

35kg 級 鈴木猛雄(静岡・焼津大富)、 40kg 級 森岡寛至(大阪・古江台)、 43kg 級 上林浩二(愛知・西尾)、 47kg 級 太田亮介(静岡・焼津港)、 51kg 級 吉田征樹(茨城・愛宕)、 55kg 級 野入明(千葉・野田一)、 60kg 級 大橋理秀(大阪・吹田一)、 65kg 級 坂井敏行(岐阜・羽島)、 70kg 級 浜崎哲治(島根・松江二)、 76kg 級 松本慎吾(愛媛・津島)、 83kg 級 伊調寿行(青森・八戸長者)、 95kg 級 高倉洋一郎(群馬・尾島)

全日本社会人選手権(6月20~21日、秋田・飯田川町小)

《団体戦》 実業団 ユニマットA、 クラブ 香川クラブ

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 若松正(ヤマサン)、 52kg 級 清水一成(山形ク)、 57kg 級 佐藤満(日本体育会)、 62kg 級 藤田隆和(徳島県教委)、 68kg

級 勝龍三郎(香川ク)、 74kg級 太田拓弥(日体大助手)、 82kg級 角崎朋博(山形ク)、 90kg級 大村達哉(長崎・島原高教)、 100kg級 浅沼俊幸(自衛隊)、 130kg級 小幡弘之(警視庁)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg級 加藤欣央(石川県協会)、 52kg級 清水光二(山形ク)、 57kg級 西見健吉(自衛隊)、 62kg級 出口泰三(和歌山ク)、 68kg級 吉田実(自衛隊)、 74kg級 植村久弥(鳥羽ク)、 82kg級 向井孝博(ヤマサン)、 90kg級 東出徹(奈良・高取高教)、 100kg級 山口孝二(自衛隊)、 130kg級 奈良英則(警視庁)

インターハイ(8月7~10日、宮崎・日南市総合体育館)

《学校対抗戦》[1]茨城・霞ヶ浦(3年連続6度目)、[2]秋田・秋田商、[3]岐阜・岐阜工、鹿児島・鹿児島商工

《個人優勝》 46kg級 戸井田昌教(茨城・霞ヶ浦)、 50kg級 杉尾和雅(宮崎・宮崎日大)、 54kg級 田南部力(北海道・岩見沢農)、 58kg級 栗田弘明(栃木・足利工大付)、 63kg級 谷山祐治(鹿児島・鹿児島商工)、 68kg級 織山昭仁(秋田・秋田商)、 74kg級 山口幸信(茨城・霞ヶ浦)、 115kg級 室谷正憲(和歌山・和歌山東)

全国高校生グレコローマン選手権(8月19~21日、徳島・池田町総合体育館、貞光中、穴吹町スポーツセンター)

《優勝者》 46kg級 仙道肇(岐阜・岐阜工)、 50kg級 三榊邦明(茨城・霞ヶ浦)、 54kg級 日浦博幸(徳島・穴吹)、 58kg級 堀清二(茨城・霞ヶ浦)、 63kg級 大西一也(徳島・穴吹)、 68kg級 高橋謙治(群馬・関東学園)、 74kg級 小室一真(茨城・霞ヶ浦)、 81kg級 佐藤亘(徳島・貞光工)、 87kg級 梁田紀幸(茨城・霞ヶ浦)、 115kg級 篠崎正二(茨城・霞ヶ浦)

全日本学生選手権(8月27~30日、愛知・名商大)

《男子フリースタイル優勝者》 48kg級 佐伯豊(日大)、 52kg級 窪木浩(明大)、 57kg級 矢山裕明(日体大)、 62kg級 中石義洋(日体大)、 68kg級 小柴健二(日体大)、 74kg級 荻田剛志(早大)、 82kg級 横山秀和(日体大)、 90kg級 岩瀬利則(国士舘大)、 100kg級 藤田和之(日大)、 130kg級 茂野充宏(国士舘大)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg級 嘉戸洋(国士舘大)、 52kg級 河合亨(日体大)、 57kg級 藤本雅志(日体大)、 62kg級 栗本秀樹(日体大)、 68kg級 宮

本健二(日体大)、 74kg 級 片山貴光(日体大)、 82kg 級 横山秀和(日体大)、 90kg 級 吉田幸司(日体大)、 100kg 級 梅田誠幸(東海大)、 130kg 級 茂野充宏(国士館大)

全日本学生王座決定戦(9月10~11日、東京・駒沢屋内球技場) = 団体戦の勝ち点方式

《順位》[1] 日体大(3年連続12度目)、[2] 日大、[3] 国士館大

国民体育大会(10月5~8日、山形・山形商高)

《成年フリースタイル優勝者》 48kg 級 山下忍(香川・県スポーツ財団)、 52kg 級 坂木勇夫(長崎・県警)、 57kg 級 金浜良(山形・ユニマツト)、 62kg 級 奥山恵二(山形・山形南高)、 68kg 級 吉本収(広島・ヤマサン)、 74kg 級 原喜彦(新潟・新潟北高教)、 82kg 級 角崎朋博(山形・東根工高教)、 90kg 級 伊藤敦(京都・府体協)、 100kg 級 浅沼俊幸(埼玉・自衛隊)、 130kg 級 小幡弘之(東京・警視庁)

《成年グレコローマン優勝者》 48kg 級 加藤欣央(石川・七尾教育事務所)、 52kg 級 中森昭平(東京・警視庁)、 57kg 級 尾白賢治(和歌山・日体大)、 62kg 級 栗本秀樹(愛媛・日体大)、 68kg 級 木村好男(東京・警視庁)、 74kg 級 三宅靖志(神奈川・東海商船)、 82kg 級 小林希(群馬・館林高教)、 90kg 級 東出徹(奈良・高取高教)、 100kg 級 野々村孝(香川・スポーツ財団)、 130kg 級 鈴木賢一(千葉・読売千葉広告社)

《少年フリースタイル優勝者》 46kg 級 戸井田昌教(茨城・霞ヶ浦)、 50kg 級 南太士郎(茨城・霞ヶ浦)、 54kg 級 寺尾将幸(東京・京北)、 58kg 級 栗田弘明(栃木・足利工大付)、 63kg 級 伊東克佳(茨城・霞ヶ浦)、 68kg 級 織山昭人(秋田・秋田商)、 74kg 級 山口幸信(茨城・霞ヶ浦)、 81kg 級 高橋善孝(青森・八戸工大一)、 88kg 級 小菅裕司(静岡・沼津学園)、 115kg 級 室谷正憲(和歌山・和歌山東)

《少年グレコローマン優勝者》 46kg 級 仙道肇(岐阜・岐阜工)、 50kg 級 工藤慎也(山梨・韮崎工)、 54kg 級 寺本良輔(三重・松阪工)、 58kg 級 堀清二(茨城・霞ヶ浦)、 63kg 級 大西一也(徳島・穴吹)、 68kg 級 高橋謙治(群馬・関東学園)、 74kg 級 渡辺哲朗(千葉・)、 81kg 級 佐藤亘(徳島・貞光工)、 88kg 級 梁田紀幸(茨城・霞ヶ浦)、 115kg 級 篠崎正二(茨城・霞ヶ浦)

全日本大学グレコローマン選手権(10月14~15日、東京・駒沢体育館)

《優勝者》 48kg 級 嘉戸洋(国土館大)、 52kg 級 河合亨(日体大)、 57kg 級 藤本雅志(日体大)、 62kg 級 谷山康隆(国土館大)、 68kg 級 和田貴広(国土館大)、 74kg 級 矢部賢二(日体大)、 82kg 級 横山秀和(日体大)、 90kg 級 岩淵利則(国土館大)、 100kg 級 鈴木文雄(山梨学院大)、 130kg 級 茂野充宏(国土館大)

《大学対抗得点》[1] 日体大(4 年連続 4 度目)、 [2] 国土館大、 [3] 山梨学院大

西日本学生選手権(10 月 23 ~ 25 日、大阪・堺市金岡公園体育館)

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 町井孝(徳山大)、 52kg 級 酒井徹治(福岡大)、 57kg 級 西岡健(南九州大)、 62kg 級 佐藤勝彦(徳山大)、 68kg 級 奥田真二(同志社大)、 74kg 級 高田和拓(徳山大)、 82kg 級 川村嘉裕(同志社大)、 90kg 級 山元直樹(福岡大)、 130kg 級 野寄賢治(近大)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 山端慎也(同志社大)、 52kg 級 酒井徹治(福岡大)、 57kg 級 請川佳記(福岡大)、 62kg 級 佐藤勝彦(徳山大)、 68kg 級 成瀬実(桃山学院大)、 74kg 級 高田和拓(徳山大)、 82kg 級 中田浩司(徳山大)、 90kg 級 山元直樹(福岡大)、 130kg 級 野寄賢治(近大)

全国社会人オープン選手権(11 月 14 ~ 15 日、神奈川・横浜市消防訓練センター)

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 葛西正人(青森クラブ)、 52kg 級 藤村和人(中松水産)、 57kg 級 藤谷務(大東大クラブ)、 62kg 級 栄和人(京樽クラブ)、 68kg 級 泉保久(少年工科学校)、 74kg 級 長井保幸(東海クラブ)、 82kg 級 高木博章(西神そごう)、 90kg 級 木川秀隆(国際証券)、 100kg 級 水橋徹(千葉県協会)、 130kg 級 雅楽川欣一(クリナップ)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 = 出場なし、 52kg 級 野竹充孝(鹿児島県協会)、 57kg 級 内浩二(自衛隊)、 62kg 級 花原大介(警視庁)、 68kg 級 永石久(山梨クラブ)、 74kg 級 杉浦貴(自衛隊)、 82kg 級 佐々木秀幸(香川クラブ)、 90kg 級 木下英規(自衛隊)、 100kg 級 佐々木伸(ヤマサン)、 130kg 級 神子沢健一(自衛隊)

全日本大学選手権(11 月 18 ~ 19 日、東京・夢の島体育館)

《優勝者》 48kg 級 佐伯豊(日大)、 52kg 級 佐藤公一(日体大)、 57kg 級 入江隆(国土館大)、 62kg 級 和田貴広(国土館大)、 68kg 級 小柴健二(日体大)、 74kg 級 中島智彦(中大)、 82kg 級 横山秀和(日体大)、 90kg 級 岩淵利則(国土館大)、 100kg 級 藤田和之(日大)、 130kg 級 浜上稔(日体大)

《大学対抗得点》[1]日体大(2年ぶり14度目)、[2]国土館大、[3]日大

全日本女子オープン選手権(11月22日、愛知・常滑市民体育館)

《優勝者》 44kg級 小池佐知枝(群馬・関東学園高)、 47kg級 吉村祥子(スポーツ東急)、 50kg級 遠藤美子(東洋大職)、 53kg級 川崎明美(自衛隊)、 57kg級 坂本涼子(リプレ中京女大)、 61kg級 清水真理子(群馬・富岡東高)、 65kg級 黒川真由美(自衛隊)、 70kg級 浦野弥生(京樽)、 75kg級 = 出場なし、 75kg以上級 三宅由美(リプレ中京女大)

西日本学生秋季リーグ戦(11月28~29日、大阪・大阪府立体育会館第2体育館)

《順位》[1]徳山大(17季ぶり6度目)、[2]福岡大、[3]同志社大、[4]近大、[5]桃山学院大、[6]南九州大

東日本学生秋季新人戦(12月10~12日、東京・駒沢屋内球技場)

《男子フリースタイル優勝者》 48kg級 中村吉元(日体大)、 52kg級 田村茂一(日大)、 57kg級 木沢美幸(東洋大)、 62kg級 佐藤公一(日体大)、 68kg級 天谷満博(早大)、 74kg級 川畑仁(日体大)、 82kg級 福田雅一(日大)、 90kg級 菅原文太(大東大)、 100kg級 吉田幸司(日体大)、 130kg級 高柳雄志(中大)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg級 田中紀好(国土館大)、 52kg級 小高浩二(山梨学院大)、 57kg級 高橋朋夫(中大)、 62kg級 米田哲也(日体大)、 68kg級 高橋明善(日体大)、 74kg級 川畑仁(日体大)、 82kg級 高木章夫(日体大)、 90kg級 菅原文太(大東大)、 100kg級 吉田幸司(日体大)、 130kg級 滝口徹(国土館大)

全日本寝技選手権(12月23日、東京・スポーツ会館)

3スタイル 25試合のワンマッチを実施 = 成績省略